

NEWS LETTER



岩手大学
岩手県立大学・岩手県立大学盛岡短期大学部
岩手県立大学宮古短期大学部
岩手医科大学
富士大学
盛岡大学・盛岡大学短期大学部
放送大学岩手学習センター
一関工業高等専門学校

～ 岩手の復興を人材育成から、今こそ連携の力で！～

2022.Mar
No. 27

Index

- ご挨拶 P.1
- トピックス P.2～4
 - 地域課題解決プロジェクト
 - いわて学
 - ボランティアとリーダーシップ
 - 危機管理と復興
 - FD・SD研修会

ご挨拶

「いわてコンソの新たな役割」

2020年1月に国内における新型コロナウイルス感染者が報告されてから既に2年が過ぎました。この間、日本の高等教育は、すべての授業をオンラインで行うという、今まで経験したことのない試練を与えられることとなります。本学でも、遠隔で授業を行うことができるオンラインシステムを急遽導入し、2020年のゴールデンウィーク明けから遠隔授業を開始しました。大学における課外活動や教員の学外活動も大幅に制限され、その影響を受け、いわて高等教育コンソーシアムにおける各種委員会活動も縮小されることになりました。

当初、新型コロナウイルスがどのようなものか分からず、正体不明なウイルスに恐れを抱きましたが、最近までの知見の蓄積によってウイルスの全貌とその対処法が明らかになり、大学における活動も徐々に正常に戻りつつあります。しかし、この2年間の出来事は日本の高等教育の在り方を大きく変えることになりました。その一つが授業のオンライン化です。今までの授業は対面が基本でしたが、オンライン化することにより学生は通学に要する時間を他に使うことができるようになり、時間割に縛られることなく学修時間の弾力化が可能になりました。教員も、授業をオンライン化するにあたり、対面授業と同等以上の教育効果を上げるべくコンテンツの開発に注力する様になりました。今後は、高等教育機関に導入されたデジタルトランスフォーメーションの波を増幅させ、授業の高度化・効率化を図ることが重要になるでしょう。

現在、高等教育機関は新型コロナウイルス以外にも幾つもの問題に直面しています。その中でも大きな問題は、18歳人口の大幅な減少です。21世紀初めには全国で150万人いた18歳人口は、2021年には114万人にまで減少し、2024年には106万人になると予測されています。岩手県における18歳人口の減少速度は全国より速く、2021年から2024年の3年間で1割以上減少するとの予測が出ています。このような岩手県における課題の解決や、地域社会で高等教育が果たす役割について議論する場として、いわて高等教育地域連携プラットフォームが、2021年6月に設立されました。このプラットフォームの中でいわて高等教育コンソーシアムは、地域との連携による人材育成の推進、高等教育人材の地元定着、高等教育機関と連携した地域の活性化と地域産業の高度化、大学への進学率向上などに貢献することを期待されています。今こそ10年以上続いたいわて高等教育コンソーシアムがその真価を発揮する時です。皆さんで力を合わせて岩手を元気にしましょう。



いわて高等教育コンソーシアム
運営委員会委員長
岩手大学理事・副学長
喜多 一美

地域課題解決プロジェクト 中津川エリア活性化プロジェクト：コンヤ、行こっか。

いわて高等教育コンソーシアムで取り組んでいる地域課題解決プロジェクトとして、令和3年度より中津川エリア活性化プロジェクト「コンヤ、行こっか。」を岩手大学澤口花咲さん、盛岡大学大藤俊介さん2人で立ち上げました。中津川・紺屋町エリアに焦点を当て、まだ魅力を知らない若者に向けて飲食店や名所を発信し、実際に足を運んでもらうための活動を行っています。

紺屋町の魅力を同世代にもっと伝えたいという思いで「コンヤ、行こっか。」の取り組みを始めました。紺屋町の歴史や文化、お店や施設を調べると毎回新たな発見があり探究のしがいのある町だと改めて感じました。また、古くから伝わる伝統や文化を残しつつ新しい物も進んで取り入れ、訪れた人にワクワクと安らぎを与えてくれるところが紺屋町の魅力の一つだと思います。そんな魅力をマップ作製やSNS活用など、大学生ならではの視点で広めていけるよう、奮闘しています。コロナ禍ということもあり、活動が思うように進まず歯がゆい思いをすることもありますが、関わってくださる人に感謝し、今自分ができていることを全力でやり切りたいと思います。



岩手大学人文社会科学部 2年
澤口花咲さん

私は現在、紺屋町界隈を若者に発信していく「コンヤ、行こっか。」という活動をしています。活動をしていく中で、地域の人々の温かさやあまり知られていないような名所などを知ることができ、改めて地元の良さを肌で実感することができました。若者が町の中であふれている状態を理想としているので、情報をどのようなかたちで発信するのか、若者が食いついてくるにはどんな条件が必要なのかを考えることが特に難しいと感じました。そのため、意見交換を繰り返し行ってきました。意見交換をしていく中で、多角的な考えが合致した瞬間が一番嬉しいと感じます。プロジェクトを遂行するには、人々の支えが必要であると再認識しました。



盛岡大学文学部 2年
大藤俊介さん

コア科目(必修)後期集中講義「いわて学」

「いわて学」は、岩手県内の大学による共通授業として、岩手県立大学が主務校となり平成22年度から開講しています。令和2年度は新型コロナウイルスの蔓延により休講となりました。令和3年度後期は、八幡平地域の自然環境等の地域特性に焦点をあて、『八幡平から学ぶ持続可能な地域づくり』をテーマとして、当初9月開講を予定しましたが、新型コロナウイルスの影響を避けるため時期を遅らせ11月6日(土)から11月27日(土)までの間で4日集中講義を開催しました。

岩手大学、岩手県立大学の2校から履修登録があり、履修登録者数は53名でした。

講義は、新型コロナ対策に万全を期しながら、国連持続可能な開発目標SDGsに関するカードゲームワークショップや岩手県の環境等について岩手県職員による講義を実施し、現地講義の前の基礎知識として八幡平DMO等の講師陣により松尾鉱山の鉱毒問題、地熱開発、安比観光開発等の八幡平地域の現状について理解を深めました。最終日にはバスを使用し、八幡平から安比高原を対象として現地講義を行ないました(下表)。

現地講義は折からの雪の中での講義となりました。八幡平の主要な観光施設であるサラダファーム、焼き走り溶岩流、国際交流村、八幡平温泉郷、安比ハロウインターナショナルスクール建設地などを見た後、安比高原スキー場、ペンションビレッジなどを訪問し、現地関係者からお話を伺いました。受け入れ側の大変熱心な対応によって多くの学びを得ることができました。短期集中ではありましたが、学生が持続可能な岩手づくりを考えるきっかけが得られたのではないかと考えています。

回	日	時間	内容	講師	会場
1,2	11/6 (土)	9:30~12:30	持続可能な開発(SDGs)について	岩手県立大学 渋谷晃太郎、丸尾美由紀	岩手県立大学滝沢キャンパス 共通講義棟101講義室集合、共通講義棟206、207講義室に分散
3,4		13:30~16:30	持続可能な開発と地域創生	インナーブランディング協会 舘川 浩、 (株)赤澤号 赤澤徳俊	
5	11/13 (土)	10:30~12:00	いわての環境	岩手県教育委員会事務局 学校教育室 重浩 一郎	岩手県立大学 滝沢キャンパス 共通講義棟101講義室
6		13:00~14:30	松尾鉱山と八幡平開発	岩手県立大学 渋谷晃太郎	
7		14:40~16:10	国立公園から見るいわての自然	八幡平DMO 柴田 亮	
9	11/20 (土)	13:00~14:30	さかなから見るいわての自然	岩手県立大学 鈴木正貴	岩手県立大学 滝沢キャンパス 共通講義棟101講義室
10		14:40~16:10	森から見るいわての自然	岩手県立大学 泉 桂子	
11		16:20~17:50	演習	岩手県立大学	
12-15	11/27 (土)	9:00~17:00	八幡平市現地講義	岩手県立大学 八幡平市関係者	八幡平市



講義風景(岩手県立大学)



現地講義 サラダファームにて



現地講義 安比高原スキー場



安比高原 ペンションオーナーによる講義

コア科目(必修)前期集中講義 「ボランティアとリーダーシップ」

前期集中講義「ボランティアとリーダーシップ」は地域リーダー育成プログラムの必修科目です。ボランティア活動に関する知識や技能、リーダーの役割、組織の動かし方について学び、ボランティア実習を通して実践することで、様々な状況に対応し得る能力と知見の修得を目的とした集中講義形式で行われます。



グループワークの様子

例年9月に開講していますが、令和3年度は新型コロナウイルス感染症が夏季に拡大したことにより12月に延期し、12月4日(土)～12月12日(日)の土日全4日間で開講することとなりました。今年度は47名の学生が受講しま

した。(岩手大学45名、盛岡大学2名)

この講義の初めに歩健学研究室 西村千尋先生よりコミュニケーションの取り方を楽しく実践しながら学び、四天王寺大学 吉田祐一郎先生からは自身の経験談を交え、ボランティア活動に必要な知識を講義していただきました。また岩手大学 後藤尚人先生の講義ではリーダーシップとは何かを学び、実際にリーダーとして活躍した人を例にリーダー像を考察しました。それぞれの講義でグループワークを取り入れ、意見の共有や学年・学部も違う学生等で多様な意見を交換する場を設けるかたちで実施しました。

実践の場であるボランティア実習では、今年度初めて3カ所の実習場所に分かれて異なる内容のボランティア活動を行いました。そしてフォローアップの講義で、それぞれのグループがどんなボランティア活動をしたか、また活動前と活動後に感じたボランティアをする側・される側の気持ちの変化などグループ発表を行い、より理解を深めることができたのではないのでしょうか。

ボランティア実習の内容



根浜海岸(岩手県釜石市)では海岸沿いに広がる松林内で、松の生育に適した土壌を維持するための松葉かきを行うとともに、砂浜に落ちているゴミを拾う作業を行いました。また、根浜海岸前で旅館を営む宝来館の女将さんより東日本大震災で被災した当時の経験をお話いただきました。



(一社)トナリノより紹介・協力のもと、竹駒牧野組合倉庫(岩手県陸前高田市玉山金山付近)の片づけ作業を行いました。作業前に地域の方からこの地域の歴史や文化、魅力でもある玉山金山についての説明や現在抱える課題についてお話いただき、理解を深めたくうえで作業を行いました。作業後は実際に金山跡も案内していただきました。



レッドカーペットプロジェクトで植樹した椿畑(岩手県陸前高田市高田松原運動公園付近)の椿の苗木が弱らないように一つ一つ苗木の根本の雑草を取り除き、栄養のある土を撒く作業を行いました。

また(株)バンザイ・ファクトリー代表取締役の高橋さんよりプロジェクトの活動や復興への思い、椿の魅力についてお話いただきました。

この講義のアンケートで参加学生から「『ボランティアはしてあげるのではなくさせて頂くもの』という言葉が印象に残っていて新たな気づきだった。」また「リーダーシップについて学んで自分に足りないところを理解することができる良い機会だった。」などボランティア精神やリーダーシップ像について理解を深めたという感想が多くありました。

また、ボランティア実習の感想も多くあり、「『生きたいと強く思えば生きられる(宝来館の女将さんのお話)』という言葉が特に響いた」、「地域の魅力や地元の方の次世代へつないでいきたいという強い熱意を感じられ、とても良い体験となった。」というように特に地域の方のお話が印象に残ったようです。

講義に参加した学生にとって、この経験が今後の活躍に繋がるひとつのきっかけになれば幸いです。

実施日	講義内容	講師・協力事業者
12/4(土)	講義：コミュニケーショントレーニング	歩健学研究室 西村 千尋
	講義：ボランティア活動	四天王寺大学 吉田 祐一郎
12/5(日)	講義：リーダーシップ	岩手大学 後藤 尚人
	講義：グループワーク	西村 千尋、吉田 祐一郎
12/11(土)	ボランティア実習(岩手県沿岸地域)	北海道大学 江本 理恵 四天王寺大学 吉田 祐一郎 岩手大学 後藤 尚人、五味 壮平 釜石：(一社)根浜MIND、宝来館 陸前高田：(一社)トナリノ、(株)バンザイ・ファクトリー
12/12(日)	講義：フォローアップ	岩手大学 後藤 尚人
	講義：振り返り	岩手大学 後藤 尚人

コア科目(選択)後期集中講義「危機管理と復興」

「危機管理と復興」は、危機管理や災害時の医療、防災、都市造りなどについて学び、様々な状況に対応し得る能力と知見を修得することを目的とした講義です。

令和3年10月9日(土)～11月13日(土)の期間で遠隔講義も取り入れながら全14回の講義を実施し、受講者は岩手大学12名、盛岡大学1名の計13名となりました。

実施日	テーマ	講師
10/9(土)	東日本大震災津波から10年～教訓から学ぶ危機管理～	岩手大学 地域防災研究センター 客員教授 越野 修三
10/23(土)	防災教育を考える	関西大学 社会安全学部 准教授 城下 英行
10/23(土)	いわてにおける防犯の現状と課題	岩手大学 人文社会科学部 准教授 藤本 幸二
10/30(土)	石碑が語る災害の歴史	岩手県立博物館 学芸第二課 専門学芸調査員 目時 和哉 北海道大学 准教授 江本 理恵
10/31(日)	現地研修(釜石根浜シーサイド)	現地研修講師 久保 農也、川崎 杏樹、小松野 麻実
11/6(土)	災害時の医療活動	岩手医科大学 災害時地域医療支援教育センター長 眞瀬 智彦
11/13(土)	震災遺構と災害文化	岩手大学 人文社会科学部 教授 後藤 尚人

今年度は一部講義内容を変更し、岩手県立博物館専門学芸調査員の目時和哉氏をお迎えし、「石碑が語る災害の歴史」というテーマで講義をしていただきました。この講義の前半では、さまざまな地域ごとに遺されている石碑の碑文について学び、そこから災害の歴史と被災状況を読み解き、後半は災害伝承についてさらに具体的に理解を深めるためにグループワークを行いました。グループワークでは沿岸地域の石碑の情報を調べ、防災マップに記念碑、供養碑、標石など石碑の種類別に所在地点を記入し、石碑の特徴や被災状況、活用の可能性などについて考察し発表しました。

また、10月31日(日)に釜石で行われた現地研修では、現地の方と対話を通して東日本大震災発生時のお話や復興(未来)のために現在取り組んでいる活動などについて教えていただきました。

この講義を受講した学生たちからは、「過去の災害に関してまだまだ知らないことが多いなと思い知らされた。」「災害時の適切な行動を学ぶことができた。」「未来に向けた明るい活動をしている人たちのお話を聞いたことはとてもためになった。」などの感想が寄せられました。

【釜石現地研修での講師を囲んで対話している様子】



講師/久保 農也氏



講師/川崎 杏樹氏



講師/小松野 麻実氏

「FD・SD研修会」



東北大学
高度教養教育・学生支援機構 講師
松河 秀哉氏

いわて高等教育コンソーシアムFD・SD連携推進委員会で主催しました、令和3年度下半期開催のFD・SD研修会についてご報告いたします。

去る12月24日(金)に、『アンケートの自由記述を分析する』と題しまして、東北大学高度教養教育・学生支援機構の松河秀哉氏を講師にお招きし、FD・SD研修会を開催いたしました。

授業アンケートを例にした従来の自由記述の分析手法に関する説明から始まり、松河先生が開発されたシステムを使用した新たな分析手法の紹介、そして最後には参加者が模擬的に作成した自由記述アンケートを実際に分析し、その結果につい

て議論しました。日頃より自由記述や文章の分析に携わっている方など多くの関係者の方にご参加いただき、活発な質疑応答も行われ、盛会のうちに終了しました。自由記述等の取り扱いは多くの教職員の方にとって関心の高いテーマであり、今回のFD・SD研修会が日頃の業務の一助となれば幸いです。

当委員会では、今回のような実作業に資するテーマから昨今の大学を取り巻く環境の変化等に対応するための勉強会など、今後も大学で働く教職員の皆様に有益な研修会等を企画してまいりますので、多くの皆様方のご参加をお待ちしております。



FD・SD研修会の様子

発行連絡先

いわて高等教育コンソーシアム事務局 (岩手大学法人運営部総務広報課内)

〒020-8550 岩手県盛岡市上田三丁目18-8

TEL.019-621-6855 FAX.019-621-6014

[E-mail] ihatov5@iwate-u.ac.jp [URL] http://www.ihatov-u.jp/